



種名：ドジョウ類 *Cyprinus carpio*

分類：在来種(日本固有種)と国外外来種(中国大陸系統)が混在 純淡水魚

○大きさ

- ・成魚：10～30cm

○生息箇所(すみか)

- ・利根川下流部や霞ヶ浦や関東平野に広く生息しています。
- ・田んぼや水路、湿地帯等の流れのない泥の中にひそんでいます。

○生態(どんな生活をしているか)

- ・雑食性(ざっしょくせい)で泥のなかの底生動物(アカムシ等)を食べます。
- ・初夏(5～7月)に田んぼやたまり等に遡上(そじょう)して卵をうみます。

○釣りや漁業

- ・利根川や霞ヶ浦では、ドジョウたたきやドジョウズ(ふくろあみ)、ドジョウふみ(ふみあみ)、ダケドウ(竹つつ)を使う伝統漁法(でんとうぎょう)があります。

○地域利用

- ・ドジョウは古くから庶民のたんぱく源として利用されてきました。ドジョウの漁獲量の減少で現在では食べる機会が減少していますが、現在でも江戸から続くどぜうの味が楽しめるお店がのこっています。
- ・一方で、在来ばかりだと思っていたドジョウに異変が起きています。ドジョウのDNAを調べたところ、在来種の他に中国大陸のドジョウがまざっていることが分かってきました。そのためドジョウ類という新しい区分ができてしまいました。国土交通省でも全力でしらべていますが、在来種が静かにきえていくのは悲しいことです。